

平成 28 年度第 1 回愛知県総合教育会議 議事録

日時：平成 28 年 4 月 18 日（月）14:30～15:30

場所：愛知県本庁舎 6 階 正庁

【県民生活部長】

それでは、お時間となりましたので、ただいまより平成 28 年度第 1 回総合教育会議を始めさせていただきます。それでは、大村知事より御挨拶を申し上げます。

【知事】

本日は、大変お忙しい中、平成 28 年度第 1 回愛知県総合教育会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。この総合教育会議では、昨年度、「教育に関する大綱」について御協議をいただきまして、2 月に「愛知の教育に関する大綱」を策定し、公表したところでございます。また、この大綱と併せて、「あいちの教育ビジョン 2020」を取りまとめております。本年度から、この大綱と教育ビジョンを教育委員会との間で共有して連携をとりながら、愛知の教育の更なる充実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

さて、この 4 月 1 日には、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正法」に基づき、従来の教育委員長と教育長を一本化した新たな教育長が就任しております。今回の会議から、新教育長を加えた教育委員会の皆様と協議をしてみたいと存じます。本日の議題は、「平成 28 年度教育行政の主要事業等について」でございます。「あいちの教育ビジョン 2020」の実現に向けましては、教育行政で重点的に講ずべき施策について、知事と教育委員会が共通の認識を常に持つことが必要だと思っておりますので、本日の議題を通じて率直な意見交換をさせていただきたいと思っております。

なにとぞよろしく願いいたします。

【県民生活部長】

ありがとうございました。続きまして、平松教育長から御挨拶をお願いします。

【平松教育長】

4 月 1 日付けで、教育長に就任いたしました平松直己でございます。新しい制度に基づく教育長ということでございますが、教育委員会の合議制の執行機関という性格は変わっておりませんので、委員の皆さんとも十分協議しながら、教育行政を推進してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

近年、グローバル化や技術革新の進展などにより、我が国の社会が急速に変化をいた

しております。こうした時代の中で、子ども達が社会的・職業的に自立した人間として、たくましく生き抜いていくことができるよう、教育委員会として、グローバル化への対応、キャリア教育の推進、教育環境の整備等の施策に、引き続き全力で取り組んでまいりたいと考えています。

本日の議題は、「平成 28 年度 教育行政の主要事業等について」でございますが、本年 2 月に策定した「県立高等学校教育推進実施計画」において、本年度から平成 31 年度までに取り組んでいくこととしている具体的な施策などにつきましても、率直に意見交換をさせていただき、知事さんと私ども教育委員会が思いを一つにしていまいりたいと考えているところでございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【知事】

それでは、議事を進めます。本日の議題は、「平成 28 年度教育行政の主要事業等について」でございます。まずは、資料について、事務局から説明をいたします。

【教育委員会事務局長】

それでは、本日配付をいたしました資料について、御説明申し上げます。

資料 1 を御覧ください。「平成 28 年度教育関連主要事業について」でございます。この中から、主な事業について、御説明申し上げます。まず、1 の「愛知総合工科高等学校専攻科の公設民営化に向けた準備」についてでございますが、本年 4 月に開校いたしました愛知総合工科高等学校専攻科について、生産現場のニーズに対応した人材の育成を図るため、国家戦略特区の制度を活用して、平成 29 年 4 月から全国で初めて公設民営化を実施いたします。現在、公募に向けて準備を進めているところでございます。

次に、3 の「新しい知的特別支援学校の整備」を御覧ください。平成 30 年 4 月に知多地区に、平成 31 年 4 月に尾張北東地区に、それぞれ新しい知的特別支援学校を開校する予定でございます。本年度は、知多地区においては、大府特別支援学校の敷地内で建設工事に着手し、尾張北東地区については、瀬戸市のみなみやまグラウンドでの建設に向けて実施設計を行ってまいります。

次に、5 の「外国人児童生徒への日本語教育支援」についてでございます。外国人児童生徒の増加及び多国籍化に対応するため、県民生活部では、日本語学習教室の運営支援や指導者の育成とともに、地元経済界、企業等と協力して造成した日本語学習支援基金の再造成等に取り組まれます。教育委員会といたしましても、この表に記載はございませんが、小中学校への日本語教育適応学級担当教員の配置や語学相談員による巡回指導などに引き続き取り組むとともに、本年度は新たに、日本語指導が必要な生徒が在籍する公立学校において、NPO 団体と協働して、日本語初期指導教室を運営するモデル事業に取り組んでまいります。

次に、7の「スポーツ人材の育成」についてでございます。今年度からパラリンピックを対象に加えまして、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに本県ゆかりの選手を多数輩出するとともに、本県のスポーツを一層推進するため、強化・育成計画に基づいた強化事業を実施してまいります。

次に、8の「山車文化の情報発信」についてでございます。昨年12月に設立いたしました「あいち山車まつり日本一協議会」の取組を支援するため、山車文化の魅力を発信するための公開イベントを開催するとともに、山車まつり関係者を対象とした研修会を開催いたします。あわせて、「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録に向けて、連絡協議会と連携して、ユネスコ無形文化遺産登録を記念した行事を開催いたします。

続きまして、資料2を御覧ください。本年2月に策定いたしました「県立高等学校教育推進実施計画（第1期）の概要」についてでございます。この実施計画は、時代の変化やグローバル社会を生きる多様な生徒のニーズを踏まえた高等学校づくりを推進するため、昨年3月に策定いたしました「県立高等学校教育推進基本計画」に基づき、平成31年度までに実施する具体的な内容を示したものでございます。この資料では、基本計画と実施計画の内容を対比させてまとめてございます。

まず、資料の1ページの左側の「グローバル社会で活躍できる人材の育成」の中の「海外の文化や言語を学べるコースの設置」を御覧ください。実施計画では、刈谷北高校に国際教養科を新設し、中村高校、一宮西高校、安城東高校に国際理解コースを新設するなど、全県にバランスよく、国際教養科や国際理解コースを設置することを検討することといたしております。

次に、資料の右側の「キャリア教育と職業教育の一層の充実」についてでございます。「キャリア教育コーディネーターの配置」につきましても、キャリア教育コーディネーターを地域ごとに配置し、学校のキャリア教育を支援することを、また「ニーズを踏まえた学科改編」では、小牧工業高校の機械科の一部を航空産業科に改編することや、名南工業高校に資源エネルギー工学科を設置することなどを検討してまいります。

資料の2ページを御覧ください。左側の「魅力ある高等学校教育の基盤づくり」の実施計画の欄を御覧ください。無線LANやタブレット端末などのICT教育環境の整備や、プレゼンテーションルームを全ての高等学校に整備することを目指すとともに、「県立学校施設の長寿命化計画」を策定し、老朽化対策に取り組んでまいります。

次に、資料右側の「生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置」の中の「総合学科の新たな設置」についてでございますが、平成30年度に緑丘商業高校、平成31年度に知立高校に総合学科を新設することなどを検討し、既存の総合学科への通学が容易でない地域を中心に、新たな総合学科の設置を進めてまいります。「普通科コースの新設」につきましても、時代の変化や生徒・保護者、地域のニーズを踏まえ、既設の「情報活用コース」から資格取得を目指して積極的に職業科目を取り入れた「情報ビジネス

コース」への改編や、教員に求められる資質を身に付けた人材を育成する「教育コース」の新設など、必要に応じて既設コースの改廃や新たなコースの設置を検討してまいります。

資料の3ページを御覧ください。2ページ目から引き続きまして、「生徒のニーズを踏まえた様々なタイプの高等学校の配置」をまとめております。「昼間定時制や全日制の単位制高校の設置」につきましては、二部制の単位制の定時制高校であるステップアップハイスクールを、平成29年度に愛知工業高校の校地に開校いたします。また、御津高校に昼間定時制課程を併設することや、地域バランスを考慮しながら、3校程度を全日制単位制高校に改編することを検討してまいります。

最後に、「生徒が減少する地域における対応」についてでございます。魅力ある学科・コースの設置や、福江高校と地域の中学校間での連携型中高一貫教育の実施を検討して、東三河地区の学校の魅力づくりに取り組むとともに、新城東高校と新城高校の2校を統合してまいります。簡単でございますが、説明は以上でございます。

【知事】

ただ今、事務局から説明がありました。これを受けまして、委員の皆様方から御意見をいただきたいと思っております。お手元の名簿の順に、平松教育長から順に御意見を伺ってまいりたいと思っております。

【平松教育長】

それでは、失礼します。私からは、ものづくり愛知を支える職業教育について、発言を差し上げます。今月、本県の工業教育の拠点となります愛知総合工科高校が開校いたしました。4月6日の入学式には知事自ら御出席いただきまして、新入生とその保護者、あるいは教職員に直接、総合工科高校にかける熱き思いと期待を語っていただきました。誠にありがとうございました。

総合工科高校は、コンクリートの打ちっ放しが多用されており、建物の構造や、配管・配線が見えるような「生きた教材」となっております。また、部屋の間仕切りに透明のプラスチックを多用することで、他の学科の生徒達が実習に取り組んでいる姿を直接目にすることで、それぞれの目標を持った生徒達が、互いに刺激を受け合うような環境が整っており、まさに、本年2月に策定した「あいちの教育ビジョン2020」のめざす「あいちの人間像」の一つの「互いに切磋琢磨し、自らの力を社会に生かすことのできる人間」を育てるのにふさわしい学校になったという感想を抱いたところでございます。

もともと、施設・設備も去ることながら、学校で最も重要なことは、授業の内容そのものでございます。高校本科におきましては、工業高校における現場での経験豊富な教員による授業が行われますが、専攻科におきましては、産業社会の現場で即戦力となる

ような、よりレベルの高い教育内容が求められ、産業界との密接な連携がより重要でございます。

そのため、専攻科では、企業での3か月程度の現場実習と学校での講義を組み合わせたデュアルシステム等を取り入れた教育を進めていくことといたしておりますが、こうした教育をより効果的に実施していくためには、民間が主体となった学校運営を可能とする国家戦略特区の制度を活用し、来年4月から全国初めての公設民営化を実施してまいります。

本年度は、外部有識者を含めた選定委員会におきまして管理法人を選定し、管理法人とともに規定整備等の準備を進めていくことといたしております。来年4月の開校に向け、万全の準備を進めていきたいと考えておりますので、是非御支援をお願いいたします。

総合工科高校は本県の「ものづくり教育」の拠点校として役割を担ってまいりますが、本県の職業教育をさらに充実していくためには、第三次産業の拡大などの産業構造の変化や科学技術の進展等の社会のニーズの変化を踏まえ、職業学科の改編や教育内容の見直しに積極的に取り組んでいく必要があると考えております。

資料2の1ページの右のところで、主な学科改編等について記載をしていますが、工業科におきましては、小牧工業高校で革新的な進化を続けていく航空・宇宙産業を担う技術・技能者の育成を目指す航空産業科、名南工業高校で持続可能な社会を支えることを目的とした工業の各分野での取組について学習する資源エネルギー工学科の設置を検討していきたいと考えています。

また、商業科の緑丘商業高校と知立高校については、多様な進路希望に応えることができる柔軟な教育課程をもつ総合学科への改編を検討していきたいと考えておりますので、御理解と御支援をお願いいたします。

最後に、県立学校の施設・設備につきましても、発言をさせていただきたいと存じます。本年度から、施設の老朽化対策を軸とする長寿命化計画の策定に着手し、平成30年度までを目処に策定したいと考えています。知多地区や尾張北東地区での新しい知的特別支援学校の整備を進めていく一方で、既存の施設につきましても、県の「公共施設等総合管理計画」の考え方に沿って、長寿命化を推進していきたいと考えております。本年度におきましては、長寿命化計画の策定前ではございますが、一刻も早い対応が必要な建物につきましても、改修に向けた先行設計を実施することについて御支援をいただくことにつき、お礼を申し上げたいと存じます。

また、施設の老朽化対策とあわせ、地域や産業界のニーズに対応するための産業教育の設備につきましても、充実に向けた基本方針を策定し、その基本方針に基づき、実習用設備の計画的な整備を目指していきたいと考えておりますので、これにつきましても、御理解と御支援をお願いいたします。私からは以上でございます。

【佐藤教育長職務代理者】

九州熊本地区で大きな地震が起きまして、九州の子ども達の学習環境も勉強どころではないところだと思いますが、一日も早い復旧復興をお祈りします。また、愛知の子ども達も何かやりたいということで、各学校でもそういうボランティアな動きが出てくると思いますので、教育委員会、各行政機関がそういうことを少しでもバックアップしていただけるよう、よろしくお願いします。

教育委員になってから、いつも同じことを言っているんですけど、中学を卒業した時点で、働きもしない、勉強もしない子ども達が、愛知県の場合千人近い数がいるということで、そこをすごく気にかけてまいりました。

先日のプランの中でも、その部分をたくさん入れていただきまして、定時制、昼間定時制の部分で、中学校時代の不登校の子ども達を少し削減できるような形で教室数を増やしていただいたり、先ほど説明のあった御津高校などでも、教室数を増やしていくこととなっておりますし、また、気になっている外国人の子ども達の勉強する、学びの場を作るということでも、定時制、通信制の学校での利用価値があるということで、新しいプランの中で入っております。

先ほどの事務局長の説明の中にもありましたが、愛知工業高校に、昼間定時制と夜間定時制を併設する二部制の単位制の定時制高校、「ステップアップハイスクール」を設置することとなっております。普通の昼間定時制高校ですと、1日4時間の授業で4年間で卒業するというものですが、特別な講座を選択することで、3年でも卒業できるという新しい取組を愛知で始めていくわけですが、これを成功事例として、いろんなところでもう少し、そういう子ども達の学び場を是非作っていきたいと思っております。

その時に思うのは、産業愛知ですから、経済団体がたくさんあります。そういうところと協力関係をもっともっと、何と言うんですかね、教育委員会に来てよく思うのは、教育委員会の中でいろいろ議論をしていて、県庁の中で各分野のスペシャリストがいるところがたくさんあるんですが、産業労働部と教育委員会との連携がどうなのかなとか、そういう県庁の中の連携、県と県庁以外の、例えば商工会議所でもいいですし、経済同友会でもいいですし、そういうところにいろいろ働きかければ、外国人の子ども達というのは、そこで就労している方の子供達でございまして、もっともっと状況が分かり、いろんなことが仕掛けられると思うんですけども、自分が商工会議所にいても、そういう情報が全然入ってこないものですから、もっともっとそういうことは連携をしてもいいのではないかなというように思っております。

自分の母校にも、「教育コース」という新しいコースができます。福江高校の「観光ビジネスコース」もそうですが、新しいコースができたときに、どういう授業がされるのかということと、今までないものですから、そういったところで誰がどうやって教える

のかという内容を詰めていかないと、教える先生達をどうやって集めるのかということもはっきり決めておかないと、コース名だけが先走って内容がついてこないということがありますので、教育委員会としては、その辺をしっかりと詰めて、名前だけではなくて、内容がきちんと伴うことをやっていこうとするためには、例えば「観光コース」なら、学校の先生が教えられるだけではないと思うので、そういうことも含めて、地域社会との連携というのを積極的に行っていってほしいということを思っております。

私、東三河から来ており、子ども達が減っている地域ですので、新城高校と新城東高校の統合や、福江高校の中高一貫という動きについては、大変関心があります。仕事も子どもも減っていることは分かっていますので、福江とか新城の子ども達、渥美半島の子ども達が学べる場を確保して、なおかつ、うまく対応できるような場を作ってまいりたいと考えておりますので、是非、よろしく申し上げます。以上です。

【岩月委員】

岩月でございます。私は、「高等学校教育の基盤づくり」について発言させていただきたいと思っております。高等学校教育の基盤づくりにおいて最も重要なことは、やはり「教師の指導力の向上」であるというふうに思います。

折しも、知事さんには絶大なる御理解と御支援をいただいた第三次愛知県教育振興基本計画「あいちの教育ビジョン2020」が2月に策定され、この4月から実行に移されております。その中には、「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的な視点とした「あいちの人間像」を実現させるための取組が述べられていますが、学校教育において重要視されるのは、やはり教師の指導の在り方であろうと思います。

「指導即ち授業」ではありませんが、授業には指導の考え方が如実に表れてきます。そこで、授業に視点を当てて考えてみますと、これまでの授業は、ともすると知識の切り売りというか、生徒がどれだけ知識を獲得するかに重きを置きすぎていたきらいがあるのではないかというふうに思います。しかし、今般の教育振興基本計画にもありますように、めざす「あいちの人間像」を実現するためには、個性や可能性を伸ばすきめ細かな教育や人としての在り方・生き方を考える教育などを充実させなければなりません。

それは、つまり「生徒の学び」に立脚した授業が大切ということであろうと思います。先に述べましたように、知識の獲得を重視してきた教材本意の授業からの転換が求められるわけでございます。小中学校の話で恐縮なんですけれども、小中学校では、かなり前から「子どもの学びを支援する」授業への転換が図られ、授業改善が日常的に行われています。そうした研究実践は、学校全体で、あるいは個人として公開されたり、協議会などで発表されたりしています。

昨年12月に出された、教師の資質向上に関する中央教育審議会の答申の中でも、「教師は学校で育つ」との考えの下、教師の学びを支援していくという方向性が示されてお

ります。高等学校においてはどうかというと、各教科の高い専門性がネックになっているのか、個々の教師の指導に対する考え方、いわゆる指導観の違いが受け入れられないのか、科目、教科、学年、あるいは学校を越えての授業研究というようなものが、あまり行われてきていないのではないかとこのように思われます。授業研究こそ生徒を伸ばすための最善の方策であるとともに、教師自身の資質向上につながる大切な行為であると考えます。愛知県総合教育センターでは、若手教師の育成を目的とするOJTの研究会を置いて実践的な研究を行い、その結果を検証した上で、全校に普及していくこととしています。

また、中学校教育と高等学校教育のより円滑な接続を図るために、中学校と高等学校間の人事交流を実施してきております。本年度は、中学校から高等学校への異動が5人、高等学校から中学校への異動が3人の、合計8人の人事交流を行ったところです。こうした事業を、互いの教師の資質向上に利用しない手はないと思います。中学校の教師が、高等学校の専門的な知識やレベルの高い内容に関する指導法を学ぶことにも意義はあるし、逆に、高等学校の教師が、中学校でのアクティブ・ラーニング的な授業展開を学ぶことにも意義があるのではないかと考えています。さらに、中学校と高等学校間で、授業交流や合同の授業研究にも取り組んでいきたい、そんなふうにも思っております。

これまで、授業について申し上げてまいったわけですが、「教師の指導力の向上」に関しては、総合教育センターでの集合研修をはじめ、様々な研修の機会を用意したいと考えています。「あいちの教育ビジョン2020」にも、取組の柱の一つに「教員の養成・採用・研修の改善」を位置付けており、「大学との連携による人材の育成」や「教員の資質・能力の向上を支援する組織体制の強化」に向けた検討をすることとしています。特に、研修の中核的な役割を担う総合教育センターの機能を充実し、愛知教育大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋大学等との間で、教育研究や教員研修等、様々な分野における連携協力を一層推進していきたいと考えております。

こうした教師の資質・能力を底上げすることにより、しっかりとした県立高等学校の基盤づくりを進めたいと考えておりますので、大村知事さんには、今後とも、より一層の御理解と御支援をお願いいたしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

【松本委員】

お願ひいたします。松本です。私からは、「県立高等学校教育推進実施計画」の中の外国人生徒の学びの場の整備について、先に少し意見を述べさせていただきます。

知事さん御存知のように、愛知県は全国でも群を抜いて外国籍児童生徒が多く在籍しています。昨年度の例では6,500名、2位の神奈川県が3,200名ですので、倍近くいるということになります。非常にたくさんの外国人生徒がいる。全国の外国人の子どものうち、20パーセント以上が愛知に住んでいるということになります。知事さんが、外国

人児童生徒の日本語教育への支援として、バックアップしていただいたおかげで、外国籍児童の多い学校には、専門支援員が増えております。大変充実してきています。ありがとうございます。

昨年度、教育委員会といたしまして、外国籍児童の多い小学校として碧南市立鷺塚小学校と、知立市立知立東小学校を見せていただきました。特に、知立東小学校は在籍児童の60パーセントが現在外国籍、母国語言語は日本語を入れると、つい先週も訪問しましたが、今年になって13か国語になったそうです。おそらく、日本で一番多いのではないかというふうに考えております。

ですけれども、それだけの状況の多様な子ども達に対して、学校の先生方は本当に工夫されて、創意工夫でクラスをまとめて、教材を手作りされて、熱意を持って日本の子どもと同じように一生懸命教育している姿を見せていただいて、大変感動を受けました。しかし、そういった外国籍の子ども達は、小学校、中学校で非常に手厚く指導を受けているものの、その後、高校、大学というところで、大きな壁がある。学びの中断がある。そのために、外国籍の子ども達の枠を増やしているのですが、まだまだ非常に少ない。この子ども達が将来愛知県にずっと住んで、愛知県を支えていく貴重な人材になる、グローバル化の中で貴重な人材になると私は考えております。外国の方々も最近定住される家族が多くなっていると聞いております。それを考えたら、この貴重な多くの子ども達を日本人の子ども達と同じように愛知県に定住してもらって、愛知県のグローバル化を支えてくれるような人材に育てていくには、高校、大学などへの道も考えていく必要があると考えております。

そのための高校再編の一つとして、外国籍生徒のための教育環境を整備していくのは非常に大事なことだと考えております。今回、生徒のニーズを踏まえた高校づくりということが非常に重要な課題になっていると思います。いつも私は申し上げているのですが、子どもは学校だけでも育ちませんし、家庭だけでも育ちません。愛知県という地域の中で、愛知県という地域全体が子どもを大切に育てていくという、そういう県としての風土を醸成していくことを知事さんに是非お願いして、私からの発言を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

【則竹委員】

私からは、キャリア教育の充実について、発言させていただきます。生徒が、将来社会の中でどのような役割を果たして生きていくのかということを考えるきっかけをつくることは、大変重要なことだと考えております。昨年のこの会議でも、昔の子ども達は、自分の親の働く姿、そして地域の大人達が働く背中を見ながら、自分が将来どういう大人になろうか、どういう職業につくかといった具体的なイメージを見続ける中で積み重ねていったのが、今の子ども達は、身近で大人が働く姿を見る機会が少なくなっている

ので、私が所属している商工会議所の職場体験事業などについて紹介をしたり、地域の会社の見学を企画して参加を促したという話をさせていただきました。

県教委でも、「あいち夢はぐくみサポーター制度」という事業を行っており、職場体験などの教育活動を支援していただける県内の企業を登録し、企業の社会貢献活動を広報する取組を行っており、昨年5月現在で1,273社の登録をいただいておりますが、こうした企業などの協力もいただきながら、生徒が産業社会を体験する中で他者の生き方に触れたり、社会で必要とされる能力に気付く場をつくっていきたくと考えております。しかし、各学校がそれぞれでこうした場を設けることには、多くの時間と人手がかかることから、インターンシップやボランティア活動の受け入れ先の開拓や、社会人講師の活用を推進するキャリア教育コーディネーターを地域ごとに配置し、各学校のキャリア教育を支援していきたいと考えております。

本年度から、尾張・三河の各2地域の4地域で1名のキャリア教育コーディネーターを活用し、学校と企業との橋渡し役となって、インターンシップ受入先の開拓等を実施できるようにしていただいたことについて、お礼を申し上げたいと思います。企業の協力をいただき、長期休業中等に生徒が取り組んだインターンシップやボランティア活動の成果を単位認定する制度の活用を促すなど、生徒がより積極的かつ意欲的に体験的な活動に取り組めるような環境づくりに努めていきます。

また、普通科の生徒の場合、受け入れ先の企業に直接職場体験を行う活動を提供していただくと、大変な労力をかけてしまうこともあるので、比較的取り組みやすい形態であるジョブ・シャドウイングの取組を広げていきながら、インターンシップ等に参加する生徒の増加を図るとともに、全ての普通科においてキャリア教育に関する授業を実施することや、各学校の創意工夫を生かし、体験的な活動を取り入れた科目や職業科目を設定することにより、望ましい職業観の育成を図っていきたくと考えております。

また、職業学科の生徒についても、それぞれの分野の専門家から指導を受け、実践的な技術・技能を身に付けることができるよう、産業労働部さんの協力を得ながら、産業現場の第一線で活躍した経験をもつ人材を、職業学科における実習サポーターとして活用する「ものづくりサポーターバンク制度」の導入を検討したいと考えております。

教育委員会のこうしたキャリア教育の充実に関する取組について、御理解、御支援をよろしくお願い申し上げます。私からの発言とさせていただきます。ありがとうございました。

【廣委員】

お願いします。私の方からは、グローバル社会で活躍できる人材の育成ということで、少し発言をさせていただきます。

まだ私、教育委員としては半年もいかないぐらいの経験しかないんですけれども、い

ろいろと皆様から御指導いただいて、小学校、中学校で、今、子ども達に大事な教育ということ、ものすごく一生懸命取り組んでやっているなあというのを感じるんですが、私は以前、高校という教育の現場で働いていたこともあって、愛知県の高校というのは、本当に一生懸命教育というのか、いい人材をつくろうということで、本当に教育に一生懸命なんですけれども、でも一つ、愛知県に即したという考え方からすると、少し違うのかなあと感じています。先ほど岩月委員からも、知識を獲得させる、一生懸命勉強をしていい大学に行かせる、というようなことには一生懸命取り組んできたと思うんですけれども、そうではなくて、もっといろんな価値観だとか、多様化された社会の中で、どう人材を育てていくかという取組を高校や大学の方でしていかないといけないと思っています。日本という国のことも考え、愛知というこの地域を考えていったときに、高校生をどうしたらいいかというのは非常に大切な取組だと思っています。

今回、「県立高等学校教育推進実施計画」というのが、具体的な案としていろいろと出来上がっている中で、やはり愛知県というこの地域の特性を出すならば、ものづくり、トヨタ自動車さんを始めとする、本当に国際的に通用する企業さんもある。そして、それを支えるために外国からの労働者さん達もたくさん来ていただいて、その子ども達もいっぱいいる、本当に国際化の縮図となっている県であるということも一つ踏まえながら、高校生にもそういうところをしっかりと教えていける場をつくっていく、そして、自分が国際的に活躍できる人材となっていけるような教育の取組を、やはりやっていかなければいけないというのを痛感する次第です。

それで、私はいま、スポーツという立場にもいるものですから、2020年に東京オリンピックがあるんですけれど、今年にはリオのオリンピックもあるわけですが、そのオリンピックに選手として活躍できる人材をとということで、選手の強化策ということをやっておりますけれども、今度はそれだけではなくて、先回の総合教育会議でも、ボランティアとして支える側の人を育てていくことが大事と申し上げてまいりました。高校生で国際大会を支える活躍というのは、長期休業中はできるかもしれないけれど、普通の平日に行われるような大会でどれだけやれるかというのがすごく大事なところで、そこを上手に寛容に受け入れながら、学生達が、愛知はたぶん国際大会をやろうと思えばやれる力量があると思うんですけれど、やれる開催に対して高校生が積極的に参加できるような手はずをどんどんと作っていただけたらなあ、ということ少し思っております。

あわせて今度の「県立高等学校教育推進実施計画」の中に、国際理解コースだとか、スポーツコースだとか、美術コースだとか、いろんなコースを作って、生徒の多様化するものに対して、ここで頑張れば社会に貢献できる人材となっていけるよ、という取組を目指していくという、そういうのを教育委員会は計画しているので、これが本当の形として高校生一人一人が生き生きとして勉強できるような環境が作れたらなあと思っています。以上でございます。

【知事】

ありがとうございました。それぞれ、お言葉をいただきました。それではまだ少々お時間がございますので、さらに御発言をということで何かあればお聞きしたいと思います。いかがでございましょうか。どなたでも結構です。

【佐藤委員】

愛知総合工科高校の入学式に行きましたけど、工業高校のトップとして総合工科高校がありますけど、他の産業教育の中でも、愛知県は地方都市に近いし、東京や大阪も近いということで、マーケットを見据えた中で農業教育も林業教育もできる県だと思うんですね。そういう意味で、県内の子ども達にも、もちろんそういう場が与えられることが必要だと思います。全国から来たくくなるような農業高校を目指すということです。田口高校の林業科だと、そこの目の前にフィールドがあって、名古屋という大都市がすぐそこにあるということで、そういうフィールドからも全国でも一番条件のいいところであるので、本当に林業を目指すという後継者を全国から集めてこれるようなものにできるのではないかと私は考えています。逆に言うと教育委員会マターではないのですが、過疎化ということで、奥三河にもう少し人が来れるのでは、と考えておりまして、特に、田口高校の林業科に来ないかなと私は思っております。今、さみしいものですから。レベル的にも、せっかく校舎の目の前にフィールドがあるのですから、可能性が非常にあるような気がしておりまして、それと一緒に、農業の方も、岡崎に農業大学校があるのですけれども、農業大学校とは別のイメージで、県内のいろいろな先進的な大学と連携した農業科というものがあってもいいのかなと、考えております。

【知事】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

【廣委員】

国際大会がらみでお話がありますけれど、高校生達は自分が運動するということはすごい一生懸命やっていて、がんばるんですけど、見に行って、支える側に回ってみたいという子どもの心を育成するというのは、なかなかできていない感じがしているんですね。できれば、本当にいろいろな大会があるんですけど、私はバレーボール協会の仕事もするのですけれど、高校生や中学生に見に来てもらうときに、裏方の仕事も一緒に見れるよというようなことがあると、支える側の人を育てることにつなげていけるのかなと。そこには、いろいろな方がいらっしゃって退職をしてからも現場で働くことによって、生き生きとしていて、バレーボールがあるから、この国際大会のために自分は

がんばって働くんだといっている方もいらっしゃいますし、学校の先生で、少ない時間の中、お手伝いに来てくれる方もいるし、いろいろなそういう思いを、高校生達がスポーツを支えている姿を見れるチャンスになるのかなと思いますね。そういったものを積極的に受け入れるのは協会ですけれども、皆さん達と一緒にあって高校生達にアピールすることが大事なのかなとも思っています。でも、授業がある、部活があるということで、なかなか休めないという子ども達の実情もあって、本当に難しいなといつも感じているんですね。その辺がうまく突破口が開かれると、ボランティア活動に対してもっと活力がでてくるのかなと、そんな気がずっとしています。

【知事】

おっしゃるとおりで、よくわかりますが、ただ高校生は部活やっているからみんな忙しいからね。この前、ラグビーのワールドカップがあるということで、12月にトップリーグの試合、2月にはサンウルブズの最初の試合がありました。その時ボランティアで三好高校の生徒が来ていたのかな、ぼちぼちやる子達はいますよ。ですから、高校生が見たい大会や試合を誘致する、マッチングするというのが我々の仕事でもあるという気がいたします。できるだけ大きな大会や国際的な大会というのを誘致したい、もちろんお金はかかりますけれど、そういったことを表明しているところであります。

スポーツの大きな大会をやろうとしますと、施設がペケだという話がありましてね。この間、瑞穂の陸上競技場を見てきました。あれは名古屋市さんが、もちろん県も応援しますが、改築するという方向で動いています。あれでは世界的な大会ができないですから、そういうことも併せてやらなければと感じました。

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。教育長、いかがですか。

【平松教育長】

この3月に、「あいちの教育ビジョン2020」を策定していただいていますので、総合教育会議で議論していただいて、県として進む道が示されていますので、県全体で、これに沿って着実に進めていきたいと思っております。あとは、職業教育に関しましては、先ほど少し申し上げましたが、総合工科高校は日本一の工業高校として、器はできましたので、中身にしっかり魂を入れるという作業を、これは教職員と一緒にあって、しっかりやってもらうということでございます。それ以外でも、知事さんの御理解も頂きながらしっかり話をしながら着実に進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【知事】

岩月委員、いかがですか

【岩月委員】

ちょっと突拍子もない話なんですが、提案してみたいと思います。近い将来では難しいかもしれませんが、先ほど佐藤委員から、田口高校で全国に範するような、範というのは模範の範ですが、そこで実践的な林業士を育て全国に輩出するというようなお話もありました。もともと愛知県は教育的には整った環境、地域でした。そういうところで、今日もいろいろな観点から、私達からもいろいろと意見を言わせていただきました。例えば、私は教員の資質向上という話をし、松本委員は海外からの子ども達をどうするかという話をしていただいたし、様々な切り口があるわけです。そういったところをどう具現していくかということ言えば、英語教育などで特区を活用して重点的にやっているというようなところもあるようですから、それをもっと拡大して、いわゆる教育全般に対しての特区を設けてみるのはどうかと思います。というか、それは廣委員が言われた大会のボランティアを育てるとか、大会だけでなくいろんなボランティアでもいいと思うんです。それを育てたくても、今の制度の中では学校を休んでボランティアに出ると、それは欠席になってしまう。例えば地震がありましたけれども、そういったところに出て行こうという意識は子ども達に育ってきていますし、実際に休暇を利用してボランティアに行く子も、東日本大震災の時には随分いました。子ども達もたくさんいました。だからそういうものを、学校の中で例えば単位として認める。それくらいのレベルで、愛知の学校教育全体をもう一度構築し直したらどうかと思います。様々な切り口で、総合工科高校ももちろんそうですし、先程の田口の林業もそうでしょうし、あるいは農業の面でも、いろいろなところで子ども達が自分の力を伸ばそう、あるいは活かそうとする学校ができるのではないかと思います。今はやっぱりどうしても成績というか、一般的な知識の獲得というレベルで輪切りにされ、段階的に学校へ進んでいく。その結果として、目的意識を見失ったり、行き先が分からないという子ども達を作らないためにも、私たち大人が何かをやっていかなければならないのではないかと思います。二回目の発言で、全く具体的なことではなくて申し訳ありません。夢のような発言なんですが、是非ここは大人達が考えて、近い将来そういった受け皿ができるといいなあとと思います。そういった面では、私たちはいつも知事さんから刺激を与えていただけますので、愛知はこんなふうに教育をやって行こうじゃないかという方向を、是非出していただけたらなと思っております。

【知事】はい、ありがとうございます。松本委員、いかがですか。

【松本委員】

今皆さんの御意見をお聞きしてですね、やはり外国人の子ども達のことばかり考えて

いたんですけれども、私は職業上、定期的に知立東小学校へ行っています。東小学校の子ども達は明るいです。ブラジルの国民性もあるのかもしれませんが、ともかく学校が明るくて、少くから先生に叱られてもへこたれない子どもたちが多く、日本の子ども達にとってもいい影響を与えているだろうと思います。まさにこれが国際的な教育なんだろうというふうに思うのですが、ところがこの明るい子ども達が、小学校中学校まではいいのですが、やはり高校、大学、あるいは専門教育を受けるというところで、どうしても日本の子ども達と同じように、将来の目標に向かって大学に進学したり、専門的な職に就くための技術や能力を伸ばしていくことが難しい現状があると思います。そういう意味では、生涯発達の視点を持って、愛知県は日本で一番たくさんいる外国籍の子ども達をいかに日本の中で生きる社会人として育てていくかというところを、岩月先生がおっしゃったように愛知モデルというような形で、外国籍の子どもを含めてグローバルに子ども達を育てていこうという、そんな教育ができるといいなと考えておりました。

【知事】

ありがとうございました。知立は私の地元でして、昔からよく存じ上げております。さっき言われた碧南の鷺塚小学校は私の出身校であります。昔は外国人がいませんでした。鷺塚団地ができてからだいぶ外国人が増えまして、西三河の中でも、知立団地、豊田保見団地、碧南鷺塚団地、そこを学区とする学校に外国人がいると。うちの子ども、上の子が26、27歳ですが、その子が鷺塚小学校に入った頃、あまりに外国の子が多いものですから、こういうことになっているのかと。その子達が、子どもの同級生の学年が上になっていくと、段々いなくなっていくのです。中学に上がったときにはもういない。一学年120～130人のうち各学年20～30人はブラジルの子がいたのが、高学年になると半分くらいになって、中学になると1人か2人、今はもう少し多いと思います。それはいったい何だ、そういったことがあっていいのか、恥ずかしいのではないか日本はと。アメリカでも外国人の英語教育を、国家を挙げてやっている。一体日本は何なのだ、労働力として便利使いして、おかしいではないか。そう言って、20年近く前から国会議員をやっていた時に、文科省、当時は文部省ですが、「どうにかしろ」とずっと言ってきましたが、ノーアンサーでした。「なんだこいつらは」と罵ったものです。最近少しはやる気になったのかもしれませんが、これは言い続けていかなければいけないし、問題意識と危機感がなければ物事は動いていきません。言わないと何も進歩しませんから。そういうことを、ずっと申し上げていくのかなと思っております。

では、則竹委員、いかがでしょうか

【則竹委員】

いつものことながら、いろんな資料を見させていただき、今日もこうして発言の機会

を頂いているわけですが、この間テレビを見ておりましたら、東京大学の入学式で30名くらいの入学者に質問をしております。あなたは親から勉強をせよと言われたか、という質問があります。その中で親から言われたことがあるのは、30名中たった3名だったと記憶しています。好きで勉強する人はかなりたくさんいて、先程来話に出ていますように、基本的に好きなことには目を向けて、それに対して邁進するというのは、人間の本来持つべき向上心である。

我々もいろんな学校を訪問させていただいても、英語に特化した学科で、子ども達は中学校時代の英語の成績は2か3ですけども、今こうして英語を通じて、生き生きとした授業を受ける姿を見ていますと、好きであることがそれぞれの身を助けていく。興味を持つということがその姿、形を通じて次なるステップが生まれてくるのではないかということもいつも思っておりますので、是非できれば現場で、いろいろな良いところはたくさんあると思いますが、校長先生がリーダーシップをとっていただいて学校はこうあるべきだという形で、一生懸命、子ども達が興味のあることを力がつくような形で進めていただければ、自ずとまた違った面が見えてくるのではないかなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

【知事】

それではそろそろ時間になりましたが、いかがですか、よろしいですか。

本日いただきました御意見を踏まえまして、28年度の教育行政を進めていきたいと思っております。今日は本年度の主要事業を御説明させていただきました。また、県立高校の実施計画1期ということで、教育委員会、学校現場の皆さんの御努力で取り組んでいただいております。それぞれの地域や学校の特色を生かしたものを、さきほども佐藤さんからお話がありましたように、そういった特色を生かした取組を進めていくということが、今の時代には大変いいのではないかと考えております。今後10年くらいしても、この県立高校の計画を作った前提としては、地域的なバランスはあるとしても、愛知県の高校生の数はほぼ変わらない。若干地理的なバランスはありますよ、県全体では変わらないということです。そういうことも踏まえまして、より時代に合わせて特色を生かして重点的に取り組みたいと考えております。そういう意味では、年度とか区切りとかいうことはありませんので、また折々に、皆様から適宜、常に御意見等をいただければありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の平成28年度第1回愛知県総合教育会議を閉会とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。